畑地かんがい用水を活かして茶の安定生産を実現
～上野博利製茶～

経営体の概要

設立年度：昭和59年度
基幹作物：茶
経営面積：5.6ha

→

現　　在：令和４年度
基幹作物：茶
経営面積：6.8ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

畑地かんがい用水の導入以前は、用水を上水道や小河川に依存し、給水タンクによりほ場まで運搬のうえ利用していたため多大な労力を要していた。また、霜害対策として防霜ファンを設置していたが、その効果は不安定だった。

平成25年度に関連事業によりスプリンクラーが設置された。県関係機関と協力し防霜、かん水、施肥、防除等の実証試験を行うことにより畑地かんがい用水を活用した安定した茶の生産を行っている。

営農改善のポイント

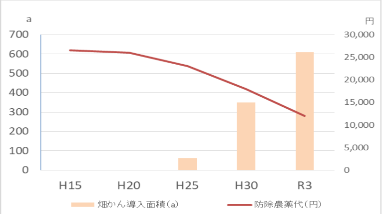
①作物の変化

霜害発生を懸念して導入できなかった早生種（さえみどり、さやまかおり等）を畑かん施設設置後に導入した。併せて、晩生種（かなやみどり）を導入し、適期の摘採期間を長期化することで摘採及び製茶加工の作業平準化を図っている。

茶園（手前の施設は液肥混入器）

②栽培技術の確立・向上

スプリンクラーにより夏季の摘採後及び中刈り後の生育促進や、一番茶の防霜を行い生産安定を図っている。さらに防除に利用することでクワシロカイガラムシに係る防除費用も低減している。また関連事業により液肥混入器を設置し点滴施肥を実証している。



畑かん面積及び農薬費用の推移

③流通・販売の工夫

15年程前から徐々にペットボトル用の茶葉の生産を拡大し、全量を契約栽培している。当地域で生産する茶葉は、量と品質が両立しており、契約している企業から高い評価を得ており、地域においても契約栽培によるペットボトル用茶葉の産地化が進展している。

茶のスプリンクラーによる防霜状況

事業概要

事 業 種：国営かんがい排水事業
関係市町：曽於市
受益面積：2,052ha
事業期間：平成18年～平成26年
事業目的：畑地かんがい　等
主要工事：ダム１箇所、頭首工１箇所、
用水路L=68km、ファームポンド5ヶ所 等

位置図（鹿児島県）

曽於北部地区

＜問い合わせ先＞
九州農政局
農村振興部農地整備課
電話：096-211-9111
（内線：4780）

（令和４年度調査時点）